

スリランカ密林遺跡探査の報告

(東洋大学・立正大学・麻布大学・東海大学・法政大学)

文責：東洋大学 佐賀見拓也

- 【活動期間】 2010年7月～2010年9月2日
- 【活動地域】 スリランカ ポロンナルワ南方 マハウェリ河左岸地域
同上 エラヘラ群 カル河・アンバン河右・左岸
(ワスゴムワ国立公園とその周辺)
- 【活動人員】 東洋大学 佐賀見拓也 (隊長・交渉・会計・医療補佐)
茶川直樹 (装備) 山口純 (食料)
立正大学 家崎昌 (会計補佐・スケッチ)
麻布大学 杉田翔一 (医療・カメラマン)
東海大学 菅沼圭一郎 (装備・測量指揮)
法政大学 滝川大貴 (装備・カメラマン)

他NPO法人南アジア遺跡探検調査会より7名
スリランカ政府考古局 局員4名
スリランカ野生動物保護局 レンジャー 1名
他、現地雇用者10名以上

【目的】

1. ワスゴムワ国立公園内外の密林遺跡の発見と調査

スリランカ政府考古局 局員と富に全体で9箇所の遺跡を探検調査した。特に活動前半のアリ・バーセマ遺跡と終盤に「発見」したストゥ・カンダ遺跡では露岩丘上や密林内に広がる各種遺構発見調査し、伽藍配置図を作成するなど特筆すべき成果を挙げることができた。

2. 破壊遺跡の現状調査

昨年東洋大学とNPO法人南アジア遺跡探検調査会が合同で発見した遺跡の再調査を行った。密林の奥にある遺跡の盗掘が1年の歳月しかたっていないにもかかわらず進行していた。特に足元の掘り返しが顕著であった。次項で触れるその他の活動も含めて、遺跡の破壊を食い止めなければならないと痛感させられた。

3. その他の活動

探検的活動以外に、NPO法人として住民への啓蒙活動として、学校を会場に生徒を対象とした集会や遺跡に対する近隣住民の意識調査を行った。

また前半の活動でベースキャンプ (以下 BC) を置いたヤックレ村小学校ではNPO 隊員

が教えている小学校の生徒と絵を用いた交流を行った。他にも日本から鉛筆とボールペンを持参し、文具の寄付を行った。またアウトドア用品メーカーであるモンベルからサンダル300足の寄贈の申し込みがあったが、期日と輸送手段の両立を行えず、お断りした。

来年の隊では是非持ち運んでいただきたい。

【現地情報】

2009年に内戦が集結し、復興の兆しをみせている国ではあるが、報道関係者の失踪や選挙の不公平性が話に上がるなど政治的には未だ予断を許さない国である。

民族はシンハラ人が70%ほどを占め、残りのほとんどがタミル人である。シンハラ人はこの国の土着の民族であると主張し、タミル人は南インドから渡ってきた別々の民族だと言うが、言語や習慣以外の外見で彼らを区別することは難しい。(そこに住む彼らでも)

気候は雨期の回数でドライゾーンとウェットゾーンの区分があり、標高の高い地域を除いて一年を通して熱帯である。今でこそ、降水量の多いウェットゾーンに人々の大分が居住しているが、古代文明は大規模な灌漑を行い、ドライゾーンで栄えた。今回の滞在・調査した地域もドライゾーンに当たるところであり、ジャングルの中では水の確保に苦労した。また、日中の日差しは照り返しもあり50度を超えて測定できなかった。我々は8月半ばにマハウエリ河右岸のヤックレで、後半はアンバン河左岸のバカムナにBCを置いた。

ワスゴムワ国立公園周辺図



調査地域について～ワスゴムワ国立公園～

マハウェリ河本流と支流アンバン川に挟まれた密林地域であり総面積は39,322ヘクタールもある。また、英国植民地時代からの自然保護区であり、現在は野生動物保護局が管理している。古くからの野生動物の保護区ということで非常に多くの動植物が見られ、野象の聖地となっている。また、観光客などに厳しい入域制限がある。

今回前半と後半で調査した両区域は南北に山脈が何本か走り、ちょうど山を挟んで対の位置にある。高い山ではないが、気候や植生の違いが感じられた。

7月後半～

菅沼、佐賀見、茶川がスリランカへ到着。

前哨活動として3人で重要物資（携帯電話・食料・宿の確保）の買出しを都市コロンボで数日行った。その後別れ、菅沼・茶川は現地の有名な遺跡を視察に行き、佐賀見は去年も観光していたので、調査地域周辺の村で宿の確保・遺跡についての聞き取り調査を行った。

8月前半～

隊員が全員揃ったところで残りの物資の買出しを行い、その後乗り物の都合で考古局員の車と鉄道の二手に分かれ移動を開始した。鉄道は相変わらず酷い揺れで、コーヒーを頼んだら半分は溢れる状況だった。

ところでスリランカの鉄道はドアが付いていない車両が多い。そのため無賃上下車し放題である。なにより走行中に足を投げ出して座っていると涼しいものである。ただし、トンネル・橋・居眠りは命取りになるので要注意。



ヤックレに到着した後、民家を1棟借りてそこをBCとした。BCから連日物資の買出しや車のチャーター、案内人手配などを行った。またそれと並行して、現地の小学校へ行き、学用品の寄付と、遺跡の大切さを教える啓蒙活動、折り鶴を教えながらの隊員の交流、日本の小学生との絵の交流を行った。

～8月半ば

いよいよ活動の大本命・ワスゴムワ国立公園へと入る。しかし、本来案内人として雇用していたヤックレの村人が、入域許可の制限にかかってしまい、ガイド・料理人なしというアクシデントにあった。料理人は幸い他で手配できたが遺跡・ジャングルに対する案内人を失った我々はいきなり不安に立たされた。

ゲートをくぐると、国立公園南部は観光客向けのサファリなどでも使用されるため、ある程度の整備はされていて非常に進みやすかった。しかし我々の調査地域はほぼ人の手がつけられていなく、通行に苦勞を強いられた。

特にワスゴムワ・オヤと呼ばれる河では河床にたまった砂でタイヤがスタックしてしまい、野生動物が動き出す夕刻まで足止めされるという危険な状態になった。



他にも倒木や野象など行く先を遮るものは多かったが、力や道具を合わせなんとか乗り切った。



その後マハウェリ河左岸に ABC を設営し、連日調査を行った。昨年発見した磨崖仏や暗渠式水路も 1 年でさらなる盗掘をうけ掘り返されており、遺跡に対する認識や教育の大切さを改めて思い知らされた。

また、遺跡の露岩丘にアリ・ベーセマ遺跡を発見した。(シンハラ語で象の水浴び場) この遺跡は天然の岩の裂け目を利用した大きな溜池が特徴でそこを中心に仏塔や建築物の後が見受けられた。露岩丘での調査は直射日光を遮る木々が無いため非常に暑く、しかし藪になる棘のついた灌木があるため調査しやすいわけでもなかった。この調査で非常に体力を削られたが、ひとまず成果として報告できる大きな遺跡を我々は「発見」した。



8月半ば～9月2日

ワスゴムワの調査が終わったあと、実ほどの地域を次に行うかは正式には決まって居なかった。

8月の初旬の段階で佐賀見はアンバン河西岸にBCを貼る予定ではあったのだが…。

理由として周辺の聞き込み調査・見学を行った時に、河の左岸には大量の遺跡があり、その遺跡群は過去に王族が船で河を遡った土地だといういわれがあった事と、その遺跡を実際に見てきて、古代図書館後や、10mを超える涅槃像があったからである。また対する右岸は野生動物保護区ということで、全くの調査がされていなかった為に何かしらあるのではないかと考えたから。

また、許可が降りなかった場合、もう一つの候補地として山の上に不自然に広がる河(=人工的な古代ダム)周辺を考えていた。

そうしてエラヘラを経由し、バカムナにBCを貼り、考古局員の助けもあり案内人も見つけることができ、調査地域が決定した。

この段階でここまで巨大な遺跡が眠っていると考えても居なかったが…。

遺跡の発見！

ワスゴムワ東部と違い、刺のある植物が非常に多く、歩きづらい地域であったが我々の目の前が急に拓けた。

左右藪に埋もれて見えないが、少なくとも20m以上はあろうかという石の階段。

このときは誰もが思ったと思う。ヤバイモノを見つけたと。

それから毎日我々は村から河を渡り、密林を超え、この遺跡に通った。ABCを設営できなかったのは手負いの暴れ象が居たからだ。野生動物保護局で野象を殺すわけにもいかず、我々は大型の爆竹を用意するだけだったが、最新の注意を払った。

調査するに連れて徐々に分かる遺跡の全容。最初に見つけた石段は13段あり、左右30mはあろうかというものだった。またそれを基礎としてその上にガードストーン・ムーンストーン・供花台・巨大な石柱など、仏教を思わせるものが大量にあった。



その石段（＝テラス）から東へ崩壊した石畳の通路が伸び、横に川が流れているにも関わらず石を樋にして上水道が通してあった。これを見たときはいよいよもって、すごい遺跡を見つけたと思った。

石の参道を登り切ると小さいが装飾の施された漏斗石や綺麗に2段に別れた溜池・そして多量の石柱や建築物跡が見受けられた。この遺跡の上部は尾根と谷が複雑に絡み合った地形で、その地形を存分に活かして建築物が建てられていることがわかった。私たちは尾根を一つ一つ潰して、確実に調査を行っていった。しかし、隊員の帰国の時間も近づいてきてしまった為、ある程度区切りを付けて帰国した。

あの遺跡の上には何かまだ眠っている！

あの規模の遺跡なら単独ではなく、周りにも他にまだ遺跡があるはず！

求む！来年の隊員！

2010 年度協賛企業

株式会社モチヅキ

マルチフューエルストーブ 2

株式会社ユニカ・株式会社墨運堂

拓本セット

株式会社モンベル

ビッグタープ 5

タープ用ポール 10

その他モンベル製品 35%オフ

財団法人 日本蛇族学術研究所

インド周辺南方毒蛇用混合粉末血清

（ラッセルクサリヘビ・インドアマガサヘビ・インドコブラ用）

蒸留水・注射・注射針セット 2式